

# 道徳通信

大田区立馬込第三小学校

東 山 良 彦

道 徳 部

令 和 3 年 5 月 1 3 日

第 1 号

新型コロナウイルス感染症拡大防止の生活が続き、早くも1年が過ぎました。昨年度の今頃は、政府から全国に一斉休校の要請が出され、学校で生活をするできなくなりました。6月から分散登校が始まり、人数を制限した活動が再開されました。私たちの生活も大きく変化して、学校行事や教育活動を変更せざるをえなくなりました。昨今の報道は新型コロナウイルスに関わる事が多く、人々の関心も高いことと思います。さて、道徳の授業は週に1度、年間を通して、35回行われます。何が正しくて何が間違っているか、判断することが難しい昨今の状況の中で、授業の中で真剣に考えて、自分の思いや考えを見つめる時間を大切にしたいと思っています。本校では、不定期ではありますが道徳通信を発行して、御家庭の皆様と一緒に、道徳教育や道徳授業について考えていくことにしました。ぜひ、読みいただき、御家族の中でも話題を広めていただけると幸いです。

## なぜ、道徳科が必要なのだろう。

道徳の授業では、道徳性について学習します。道徳性とは「きまりを守ること」「親切にする」「生命を大切にすること」など、私たちが生きていく中で、とても大切なものです。けれども、きまりを守ることや、困っている人に親切にすることは、道徳の時間で学習をしなくても、多くの人が、その大切さを理解しているでしょう。「困っている人がいたら親切にしよう。」「きまりは、きちんと守ろう。」誰もが、頭の中では理解しています。では、実際に実現できているのでしょうか。大人の私たちでも、時と場合によっては、実現することが難しい状況もあります。

道徳科の授業では、行動や結果に目を向けるのではなく、心の中の思いや感じ方をしっかりと見つめます。私たちの行動の背景には、様々な思いや願い、迷いがあります。例えば、「困っている人に親切にする。」という行動の背景には、親切にできる場合もあれば、急いでいるから、通り過ぎてしまおうとする気持ちもあるかもしれません。自分が困ったときに親切にされた経験があり、その時を思い出して親切にできる場合もあります。結果として現れる行動は1つですが、その背景にある思いや考え方は人それぞれです。その思いや考え方をじっくりと見つめることが道徳科の授業で大切なことです。このような学びを積み重ねるにつれて、将来出会うであろう課題を解決する力となります。道徳科は、子供たちがこれからの未来に向けて正しく生きるために必要な学習であると考えます。私たちが生きていく社会の中には、答えが一つに決められないことがたくさんあります。たくさん考えて、迷い悩んで、その中で、より良く生きる上で大切なことは何かをその子なりに、見付けてほしいです。



どうしよう！！  
まよっちゃうな。

そうか。そうい  
う考えもあるか  
もしれないな。



## 道徳クイズ

低学年の道徳の教材に、「かぼちゃの つる」があります。つるを伸ばすのが、大好きなかぼちゃは、どんどんどんどん、つるを伸ばします。自分の畑が空いているのに隣の畑や道などにつるを伸ばします。「ここは、あなたの畑ではありませんよ。」「道が通れないから、つるをどかせてください。」と言われても「ふん、そんなこと かまうものか。」と言って、少しも言うことを聞きません。けれども、わがままをして、つるを伸ばしたかぼちゃは、トラックにひかれて、つるが切れてしまいました。さて、現在の教材は、最後はトラックにひかれてしまいますが、昭和41年の資料では、トラックではありません。トラックでなくて何だったのでしょうか。答えは、裏面に！！  
(ヒント、昔のトラックです。)



## 「きっと、絶対に怒ると思うけど、怒らないでください」

教員を続けていると、毎年、様々な出来事が起こります。だいぶ前のことですが、こんなことがありました。

「先生きっと、絶対に怒ると思うけど、怒らないでください。」

こんな前置きがありました。「何があったのだろう。」と思って、子供の話を聞きました。給食の準備をしているときのことです。献立のスープの中身が気になり、きちんと並ばずに食缶の中をのぞき込んだそうです。そのときに、手に持っていたセロハンテープの欠片を食缶の中に落としてしまったとのことでした。

「そのセロハンテープは、今どこにあるの？」

と、聞いたら「ここ。」と本人が手にもっています。

見ると、セロハンテープの欠片がスープでべたべたです。

「どうやって、取ったの？」

と、聞いたら、直接手をスープの中に突っ込んで取ったそうです。

これは、一大事です。異物混入と直に手を入れたことのダブルです。

「ごめんなさい。ごめんなさい。絶対に怒らないでください。」

と本人は必死です。

「そっか。わかったよ。正直に言えて偉かったね。今から副校長先生や栄養士の先生と相談してくるから、ちょっと待ってね。怒らないから安心してね。」

と言い、急いで教員室へ行き事情を話しました。配ってしまったスープを急いで回収しました。栄養士の先生が他の教室からスープを集めてくれました。担任一人では、配りきれないので、講師の先生方も手伝って配膳してくれました。起った出来事を子供たちに正しく伝えた後に

「正直に話してくれたから、先生は、すぐに副校長先生に相談することができました。みんなもおいしい給食を食べることができました。きっとセロハンテープが落ちちゃったときには、『どうしよう。怒られちゃう』と思ったと思います。正直に言うことは、勇気が必要です。正直に言ってくれたことが、とても嬉しいです。」

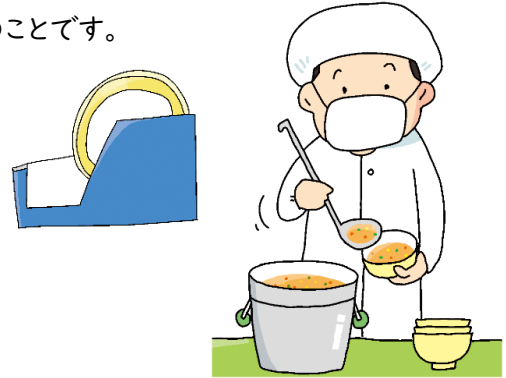
と、伝えることができました。

正直に話をして、よかったという思いは、子供たちにとって、とても大切です。正直に話したら怒られたり、嫌な思いをしたりしたことしか残らなかったら、次からは、正直にすることができなくなってしまうのではないのでしょうか。

「正直にすると怒られる。」ではなくて、「正直に言えてよかった。」と思えるような声をかけることが必要であると感じました。

私自身も、この時には「きちんと座っていなさい。」「なんでセロハンテープを持ったままスープの近くに寄るの。」と言いそうになりました。ただ、「絶対に怒ると思うけど、怒らないで下さい。」の中に込められている、思いが伝わり、「大丈夫だよ。正直に言えて偉かったね。」と声をかけることができました。

認めたり、励ましたりする声をかけることが、子供たちにとって、必要なことであると感じます。



あいさつが、しっかりできると、気持ちがいいね！

空がきれいだね。なんだか、とってもいい気持ち！！

元気に遊ぶと、楽しいね。

表面の道徳クイズの答え

手押し車（リヤカー）